

体外衝撃波治療器

BTL-6000 TopLine Magnum[®]

BTL-6000 トップライン マグナム[®]



体外衝撃波治療とは

体外衝撃波は1980年代から医学で使用されており、近年では整形外科、理学療法、リハビリとスポーツ医学などの分野で応用されています。体外衝撃波治療には主に「集束型体外衝撃波治療」と「拡散型圧力波治療」の2つのタイプがあります。当院で採用している拡散型圧力波は音波エネルギーの一種で、筋肉、骨、靭帯や腱などの筋骨格系の組織に物理的な刺激を与えることで、組織の再生プロセスを引き起こし、疼痛緩和に繋がります。

対象疾患

国際衝撃波治療学会 (ISMST) では
下記の疾患が対象とされています

- **足部**
アキレス腱付着部炎、アキレス腱炎、足底腱膜炎など
- **膝・下腿**
膝蓋腱炎（ジャンパー膝）、膝変形性関節症など
- **肘・手**
上腕骨外側上顆炎（テニス肘）、手根管症候群など
- **肩**
石灰沈着性腱板炎、肩関節周囲炎（五十肩）など
- **その他**
痙縮、離断性骨軟骨炎など

治療の流れ

- **触診**

痛みが最も強い部位を触診によって特定します。



- **照射**

部位にジェルを塗り、照射を開始します。
低い出力で始め、痛みに対する反応を見ながら、
パラメーターを調整します。



- **終了**

治療は数分で終わります。
ジェルを拭き取って終了です。



治療の特徴



治療時間
約6分



持続的な
除痛効果



体への負担が少ない
非侵襲的治療



日常生活やスポーツも
継続可能

治療は入院の必要がなく、短時間で行われます。
除痛効果は持続性があり、副作用が少ないため、
日々忙しい方や、大会を控えたスポーツ選手、
手術に抵抗がある方にお勧めです。

中高年の幅広い世代に
世界中で使用されています。

体外衝撃波 Q&A

- **治療中に痛みはありますか？**

患者様の状況によって治療中にある程度の痛みや不快感を覚える場合があります。患者様一人一人の許容範囲に合わせて出力を調整しながら施術を実施します。

- **治療時間や施術回数はどのくらいですか？**

患者様によって異なりますが、多くの疾患では、1回約6分の治療を3～7日間隔で行い、数回の施術が必要とされます。

- **治療ダウンタイム（回復期間）はありますか？**

治療直後から日常生活に戻ることができます。治療部位における軽い痛みは通常、治療後24時間以内に消失します。

- **副作用はありますか？**

治療部位に赤みや痛み、不快感、腫脹、内出血を伴う場合があります。深刻な副作用は、確認されていません。

- **禁忌事項はありますか？**

治療部位の悪性腫瘍、コルチコステロイド、妊娠、肺、脳、心臓、肝臓、腎臓、血栓異常、感覚障害のある部位への照射などが禁忌事項にあたります。
詳細については担当医師にご相談ください。

- **治療の効果はどのくらいで現れますか？**

1回目の治療後から効果を実感します。
その後は数週間にわたって持続するでしょう。
治療効果には個人差があります。

- **治療はどのような人に向いていますか？**

肩や肘、膝などに典型的な慢性痛があり、非侵襲的な解決策を求める方、長期的な怪我に悩むスポーツ選手から中高年までの幅広い世代の方など、どなたでも治療を受けることができます。

- **拡散型圧力波にはどのような効果がありますか？**

拡散型圧力波には大きく二つの基本的な効果があります。一つは除痛効果です。痛みを伝達する物質の量を減少させ、痛みを和らげます。

もう一つは組織修復の効果です。血管新生を促進する成長因子の生産を引き起こし、血流を改善させて組織再生プロセスを促進します。